

災害発生

その時あなたは？ 2023



1人1人ができること



地域でできること



公的機関ができること



もしものための備え 地域防災力UP

自助

自分の身を自分で守る

災害時に落ちついて行動するため、日ごろからの「心構え」と「備え」が重要です。

共助

頼りになる住民同士の協力体制

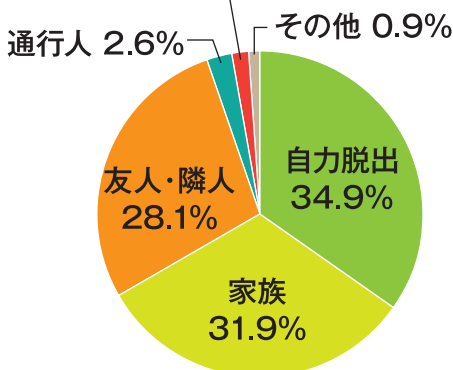
「安否確認」「避難所運営」「避難行動要支援者の避難支援」「在宅避難者支援」「救助活動」

阪神・淡路大震災における
生き埋めや閉じ込められた際に救助された

94.8%は自力・家族・友人・隣人



救助隊の救助 1.7%



(社)日本火災学会(1996)「1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」参照



令和元年度宮城県9.1総合防災訓練(大衡村)

減災

災害の発生は防げませんが、被害を少なくすることはできます。
日々の地道な取組を確実に！

共助 地域の防災組織 “自主防災組織”

自主防災組織ってなに？

“自分たちの地域は自分たちで守る”という自覚・連帯感に基づいて、自主的に結成し、災害による被害を予防、軽減するための活動を行う組織のこと。“災害対策の三助”のうちの**共助の中核**を担っています。

自主防災組織が災害から地域を守る

■ 迅速な避難を可能にする

自主防災組織で、定期的に避難訓練を実施していれば、事前に避難方法の確認ができ、避難をより円滑に行うことができます。

■ 的確な安否確認ができる

自主防災組織で、安否確認のルールや避難行動要支援者(※)の対応を決めておくと、安否確認をスムーズに行うことができます。

■ 避難所の運営が円滑になる

自主防災組織で、避難所運営のルールづくりや、定期的な避難所運営開設訓練を実施することで、想定外の事態にも円滑に対処しながら、運営を行うことができます。

どんな活動をしているの？

災害時

- ▶ 安否確認の実施
- ▶ 救出・救護
- ▶ 避難誘導
- ▶ 災害時の避難行動要支援者(※)への避難支援
- ▶ 避難所運営、被災情報の伝達

平常時

- ▶ 町内会・自治会等の防災訓練
- ▶ 防災マップの作成
(地域の災害危険度の把握)
- ▶ 防災に関する勉強会の実施
- ▶ 防災資機材の整備

※避難行動要支援者 | 災害時に自ら避難することが困難であり、円滑かつ迅速な避難を図るために特に支援を必要とする方

共助 地域防災の中核 “地域防災リーダー”

地域防災リーダーは、地域や事業所等において、防災対策に関する活動の中心的な役割を担っています。

防災リーダー「宮城県防災指導員」の養成とフォローアップ

宮城県では、毎年、宮城県防災指導員の養成講習とフォローアップ講習を実施しています。講習では、地震津波・風水害・原子力災害等の各種災害の知識を学び、地域で防災マップを作成する際に役立つDIG（災害図上訓練）や避難所運営の大変さを体験できるHUG（避難所運営ゲーム）などのグループワークを行い、地域の防災活動に必要なスキルを高めています。

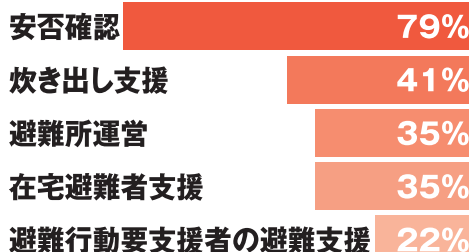


DIG（災害図上訓練）の様子

DIGでは、実際に自分が住む地区の地図に、災害時の危険箇所（水路や壊れそうな建築物の近く等）や、災害時に役に立ちそうな所（一時的に避難できる公園や食料が沢山あるスーパー等）、安全に避難できそうな道などを地図に書き込んでいきます。演習後、実際にまち歩きを行って、気づいた所を書き込めば、災害が発生したときに頼りになる「防災マップ」ができあがります。

防災リーダーはどんな活動をしているの？

災害時の活動



普段の活動



出典：「平成27年度宮城県防災指導員活動実態調査」の「震災時の活動について」より

出典：「令和3年度宮城県防災指導員フォローアップ講習アンケート調査」より

県内ではこんな地域防災活動が行われています

丸森町婦人防火クラブ連合会

地域特性

- ▶ 町の高齢化率が高い(43.5%)
- ▶ 平地では水害リスク、町の大半を占める山間部では土砂災害リスクあり
- ▶ 令和元年東日本台風では町内6箇所の雨量観測所全てで過去最大値を観測。最も多い観測所では総雨量612mm。



▶ 丸森町婦人防火クラブ連合会 会長 宍戸さん

- ・ 住民防災意識向上のため、平日頃の避難訓練、防災訓練が大切。
- ・ 早めの避難をする、危機感を持つ。
- ・ 「災害は待ってくれない!」という認識で防火、防災活動を継続する。
- ・ 地域でリーダーシップを発揮する人材育成が必要。

地域の取組

- ▶ オンライン研修会に挑戦。コロナ禍でも工夫し実施する。
- ▶ 助成金を活用した、地域ごとの研修会「防火、防災の集い」を開催



- ▶ 年に1~2回 防災防火専門研修会、施設見学等の移動研修会を開催



- ▶ 各地区で年2回、消防団と連携した毎戸点検・初期消火訓練を実施



色麻町吉田地区

地域特性

- ▶ 28世帯
- ▶ 地盤が固く地震に強い
- ▶ 地区の北側に保野川が流れ、浸水リスクあり
- ▶ 農家が多い



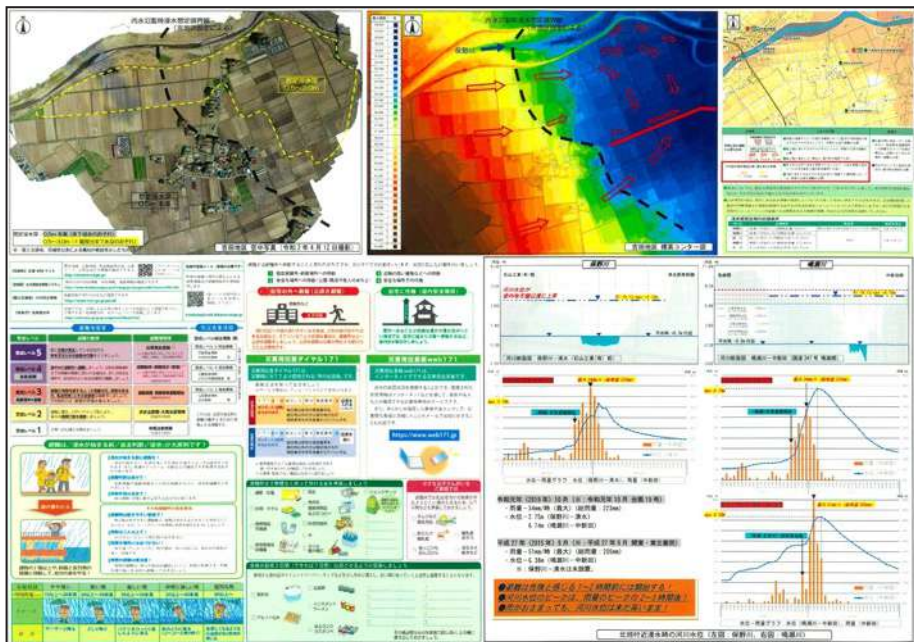
地域の取組

地区独自で防災マップを作成し、全戸配布！

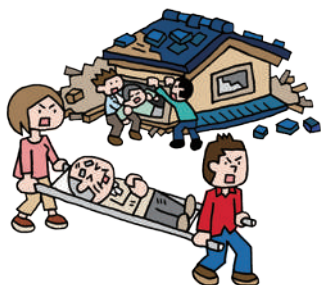


- ▶ 浸水エリア、越水箇所を記載し、危険な箇所が明確に
- ▶ 全戸の避難ルートをそれぞれ記載
- ▶ 農機具車両が水没しないよう、避難駐車場所を指定
農家にとって農機具は財産！

▶ マップ裏面には、地形や河川断面図、備蓄品などを表示



▶ 色麻町吉田地区自主防災組織
会長 畑中さん、前会長 早坂さん



県内の主な震災伝承施設

宮城県内では、東日本大震災の記憶や教訓を世代を超えて伝え継いでいくため、多くの震災伝承施設や震災遺構等が整備されています。



① 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館



② 南三陸311メモリアル



④ みやぎ東日本大震災津波伝承館



③ 石巻市震災遺構 門脇小学校



⑤ 震災遺構 仙台市立荒浜小学校



⑥ 山元町震災遺構 中浜小学校

広報紙「Baton(バトン)」発行中!

県では、県外に在住されている方々や、震災を知らない若い世代を含めた幅広い層の方々に復興や伝承に関心を持っていただくため、広報紙を年4回発行しています。タイトル「Baton(バトン)」には、世代や地域を超えて広く「伝える」、リレーのバトンのように「つなげていく」という意味を込めています。県庁内や県内の震災伝承施設で配架しているほか、県ウェブサイト上でもご覧いただけます。



Webで
読む場合は
こちら



令和5年3月作成

宮城県復興・危機管理部防災推進課

